

輸出事業計画（GFPグローバル産地計画）

※申請者名：足立醸造(株)、品目：オーガニック醤油

1. 輸出における現状と課題

明治22年創業の当社は、「木桶を使った伝統製法」による「オーガニック醤油」を製造しており、平成22年にスイス、平成24年からドイツに向けた輸出を本格的にスタートした。（写真は、当社の120石の木桶）近年、国内外を問わずオーガニック食品に対する需要が向上しており、コロナ禍においても「食の見直し」によって、当社の「木桶仕込みのオーガニック醤油」の引き合いが高まっており、直近では年間約101.5tの輸出実績がある。

しかし、当社の現在の生産体制では稼働率100%に達しており、増加する受注に対応できない。また、海外の取引先からはFSSC22000取得を強く要請されている。



2. 輸出事業計画の取組内容

欧米諸国ではオーガニック志向者が多く、和食の人気からオーガニック醤油の需要が極めて高い。また、当社が採用している「木桶を使った伝統製法」は、ワインと製法や嗜好性が似ていることもあり海外で高い評価を受けており、近年生産が需要に追い付いていない。現状の取引先である輸出商社からは、30%以上の増産を要請されている。

また、オーガニック醤油の輸出先企業からは、食品安全マネジメントシステムの国際規格である「FSSC22000」の取得による、より円滑な取引を要望されている。なお、当社と同等の規模でFSSC22000を取得している醤油醸造業者は国内では確認できなかった。

そこで、国際規格を満たす新蔵(工場)を建設して増産体制を整備し、同時に、令和4年2月までにFSSC22000の認証を得る。

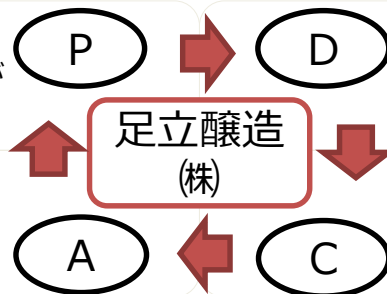
これにより、以前からの輸出分の増産要請に対応するだけでなく、商社や公的機関の支援を得て海外の販路・輸出量の拡大に取り組む。



3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

足立醸造(株)を中心に、商社・生産者と調整し、支援機関の支援を受けながら計画を作成。

支援機関からの指摘事項を踏まえて事業課題を整理して、担当チームを中心に事業の改善に取り組む。



足立醸造(株)が主体となり、商社・生産者と協力して事業を実施。行政や支援機関（コンサル、金融機関、公的支援機関等）が実施をサポート。

支援機関等が中心となり、それぞれの視点から事業の進捗状況や事業成果を確認する。社内担当チーム(新設)を中心に情報共有等を行う。

4. 輸出目標額

醤油の醸造には約3年掛かることから、事業実施4年度目(令和6年9月期)から成果が上がる。新たに建設する蔵は、輸出用のオーガニック醤油をメインに製造するため本事業によって増産した分だけ、輸出量が増える。

まずは、増産要請を受けているドイツ向けに対応した上で、アメリカやイギリス、スイス向けの販路拡大に取り組むことで目標達成を目指す。

《現状》 主な輸出先国/ドイツ・アメリカ等
輸出量/101.5t
輸出額/27,600千円

《目標》 主な輸出先国/ドイツ・アメリカ等
輸出量/183t (現状の約1.5倍)
輸出額/55,200千円 (現状の約2倍)